



国民の森林・国有林

中部森林管理局

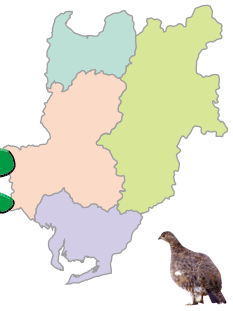
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



植樹作業を行う参加者（山之口国有林）

各地で緑化行事が開催される

～豊かな緑を後世に引き継ごう～

(P 2～4 に関連記事)

主 な 項 目	○ 城土局長が木曾青峰高校で特別授業	P 2
	○ 各地からのたより	P 2～4
	○ シリーズ森林官からの便り	P 4～5
	○ 風景紀行	P 6



【総務課広報】六月四日(月)、城土局長が木曽青峰高校森林環境科の特別授業を行いました。今回の特別授業は、木曽青峰高校が五月に東京都の日比谷公園で開催された「森林の市」に出店した際、皆川林野庁長官を訪問したことを契機として実現したものです。

特別授業では、木曽谷の森林の歴史、国有林の成立や役割などを紹介。木曽は古くから良質なヒノキの産地、尾張藩が行った過度の伐採と山林保護政策の繰り返しなどを説明したほか、森林浴発祥の地である赤沢自然休養林での森林セラピーなども例に挙げ、森林の持つ多面的な働きに着目した森林の活用を考えていくことの重要性を呼びかけました。

受講した生徒三十九名からは、「授業で聞いていないことばかりで、とても参考になった。」「国有林の役割が改めてはつきりわかった。」「木曽のことでも知らないことがあってとても参考になった。」「などの感想が寄せられ、先生からも「授業で触れていないところを、興味ある雑談を入れながら、生徒も職員も面白く聞かせていただいた。貴重な話をもう少し聞きたかった。」「との言葉が聞かれました。



特別授業を行う城土局長

今回の特別授業が、同校生徒にとって、将来、森林・林業の担い手となるうえで一つの糧となればと願っているところです。



「ふるさとの森づくり県民の集い」

長野県植樹祭開催

【指導普及課・北信署】六月九日(土)、長野県、中部森林管理局、野沢温泉村などが主催する平成二十四年度ふるさとの



緑の少年団と植樹する嵯峨北信署長



記念植樹する城土局長

森づくり県民の集い・第六十三回長野県植樹祭が「育てよう 未来へつなぐ 森づくり」をテーマに、野沢温泉村オリンピックスポーツパークで開催され、地元



北信署の展示ブース

地域のみどりの少年団をはじめ、林業関係者、一般参加者など約千二百名が参加しました。

今回の植樹祭では、野沢温泉村の苗畑で作られた花粉の少ないスギと、北信地方の雪深い地域に生育するユキツバキ、その一種で野沢温泉村ではよく見られるノザワツバキの計四、二〇〇本の植樹を行い、また、昨年の震災からの復興を祈念したオオヤマザクラの植樹も行われました。

式典前まで降っていた雨の影響で足元が滑りやすい中、参加者は植え穴を掘る際に出てくる石や草の根に苦労しながらも、一本一本ていねいに植え込み、心地よい汗を拭っていました。

会場では各団体から森林・林業に関するパネル展示、郷土産品の販売ブース等も出展され、昨年発生した長野県北部

地震での復旧状況や、平成二十八年度の長野県誘致に向け関心が高まっている全国植樹祭についても紹介されました。

また、地元の北信署からは、国有林における森林整備等の取り組み内容と森林の役割・働きなどをPRしたパネル、署員が製作した木工クラフト等の展示を行い、植樹作業後に立ち寄った参加者らが展示品を前に、署員の説明に熱心に耳を傾けていました。

平成二十四年度

佐久地区森林祭を開催

【東信署】六月十日、「平成二十四年度佐久地区森林祭」が長野県佐久地方事務所、小諸市、佐久森林林業振興会、佐久森林組合、東信森林管理署の五団体の主催により、小諸市の菱平農事実行組合有林で開催され、林業関係者、一般参加者など約三百名が参加し植樹



ヒノキを植える千曲小学校緑の少年団



等間隔にヒノキが植樹された現地

作業を行いました。

この催しは、森林・林業・木材業への理解を深め、地域緑化及び地域住民の参加による森林整備に対する意識の高揚を図るため、地域住民の参加により毎年開催しているものです。

主催者を代表して日高東信森林管理署長の開式の挨拶で式典が始まり、千曲小学校みどりの少年団代表五名から「私たちは、かけがえのない緑豊かな森林を、未来の人々に引き継ぐため、お互いに手を取り合い、助け合って緑を守り育てます」との力強いみどりのふれあい宣言の後、植樹作業に入りました。

作業は一・一八畝にヒノキ三千五百本の植樹を行いました。参加者は、ヒノキ

一本一本を真心込めて丁寧に植え付けていました。

また、午後からは希望者を対象に、御代田森林官ほか当署職員二名の森林インストラクターによる、浅間山国有林にある日本最古のカラマツ人工林などを散策する森林教室を行いました。

式典の最中は霧がかかり、作業終了前に小雨が降るなど天候が不順ではありましたが、参加者からは「今日植えた場所は、また二十年後は立派な森になるかな。」「久々の植樹で楽しかった。」などの声も聞かれ、実りある森林祭となりました。

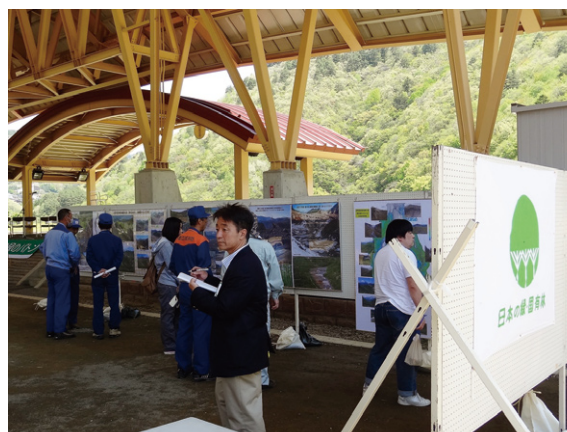
「2012緑のバトン」が

開催される

【木曾署】五月十九日（土）から五月



式典であいさつする木村総務部長



パネルで治山事業をPR



ドングリから育てた苗を植樹

二十日（日）にかけて、王滝村松原運動公園をメイン会場とする「2012未来世紀へつなぐ緑のバトン」が開催されました。

このイベントは、一九八四年の長野県西部地震災害（王滝村）の翌年度より毎年行われているもので、荒廃した箇所に緑を再生し、水を育む森を後世に引き継ぐことを目的に、木曾川下流域と地元とが協力しあいボランティア活動により植樹や森林整備を行っているものです。

初日は、さわやかな春風の吹く松原運動公園に関係者二百五十名が参集し式典が行われ、中部森林管理局からは、木村総務部長・高嶋木曾森林管理署長・近藤木曾森林環境保全ふれあいセンター所長が出席しました。

会場では、関係団体によるパネル展示や木工教室、地元特産品の展示即売等が行われ、木曾森林管理署からは、長野県西部地震からの復興を記した治山事業のPRパネルを展示しました。

午後は濁川の植樹会場に移動し、当署職員の指導のもと、参加者らは王滝産のドングリから育てたミズナラやヤマザクラ・カエデの苗木約千二百本を「未来の水源の森」に夢を馳せ、一本一本丁寧に植え付けていました。

二日目は、中日森友隊二十四名を中心に近隣の治山施工地における除伐等の森林整備が行われ、「水源の森」も日当たりや風通しが良くなり、一帯はすがすがしい雰囲気になりました。

この二日間のイベントを通じ、水源地域保全の重要性をPRするとともに、「水」が取り持つ上下流の「人」との交

流を深めることができ、大変有意義なイベントとなりました。

「山之口川」源流域で

地元住民らによる記念植樹

下呂市萩原町山之口国有林

「岐阜署」日本三百名山 位山三山「川上岳」の登山口となる山之口国有林で、五月二十六日（土）、尾崎小学校児童・父兄ほか地元林業関係者ら六十名の参加をいただき、植樹祭が開催されました。

植樹祭は、「清流の国ぎぶづくり」・

「グリーンウェイブ二〇一二」の協賛事業として名古屋林業土木協会小坂支部と岐阜森林管理署の共催により行われ



生物多様性の話を真剣に聞く皆さん



植樹を終え記念撮影

ました。

また、本催しの準備は、名古屋林業土木協会小坂支部や山之口地区の林業関係者の方々と共同で進めたことから、「山之口川源流域植樹祭」と銘打ち、多彩なメニューを入れて行われました。

主催者の挨拶に引き続き、名古屋林業土木協会前原専務理事による生物多様性の話には子どもたちから大きな歓声もあがりました。

続いて、当署の中嶋治山第一課長から植樹方法の説明を受け、カエデ・ナナカマドなど、五十本を植え付けました。

植樹終了後、佐々木治山第一係長が講師となつて森林の持つ保水効果や治山事業の必要性等について、ミニ森林教室を開き森の働きを学習しました。

当日は快晴に恵まれるとともに、多く

の参加者から「来てよかった」「楽しかった」などの声も聞かれ、久しぶりに地元の皆様との一体感を味わった一日でした。



「富山署宇奈月森林事務所」

大内 隆成 森林官

宇奈月森林事務所は、富山県の東部に位置する黒部市・入善町・朝日町の三市町にまたがる約三八、七〇〇畝の国有林と約二二畝の官行造林を管轄しています。



峡谷を走るトロッキ電車



黒部川第二発電所

管内の国有林は、標高一〇〇〇メートル、三、〇〇〇メートルに及び、中部山岳国立公園や県立自然公園に大部分が指定されており、国有林野の貸付等の管理業務を中心とした森林事務所となっています。

特に黒部市（旧宇奈月町）に所在する黒部奥山国有林では、日本一深いV字峡谷を縫うようにトロッコ電車が走っており、年間約四十万人の観光客が訪れる県内有数の観光地となっています。

また、この地域は年間降水量が四千メートル近くあり、豊富な水量を利用した水力発電が大正時代から今日に至るまで行われ、軌道沿線には発電所やダムが見られます。

なかでも、黒部峡谷二番目の発電所である、黒部川第二発電所は、昭和十一年

に竣工し、「富山の建築百選」に選定されており、戦前のモダンな姿を車窓から眺めることができます。

富山東端部に位置する朝日町には、大蓮華国有林があり、北アルプス北端に位置する朝日岳（二、四一八メートル）がそびえています。朝日岳は、多様な高山植物やライチョウなどの希少野生生物が登山者の目を楽しませてくれます。また、朝日岳にちなんで「朝日町」と名付けられたほかに、町のシンボリック的存在となっています。

当森林事務所では、この朝日岳を中心とした朝日・白馬地区及び黒部・後立山地区を活動区域とした高山植物保護パトロール（通称グリーンパトロール、Gパ



大内森林官（朝日岳山頂にて）



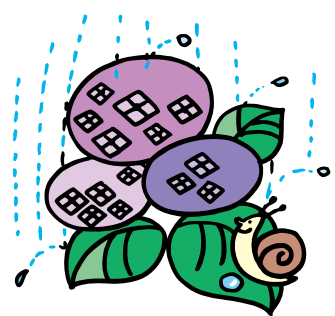
ライチョウの親子（朝日岳）

ト）を実施しており、学生を中心としたパトロール員により高山植物保護のための巡視・指導や立ち入り禁止柵の設置改修等を実施しています。

当森林事務所の森林官になって三年目になりますが、当初は現場に行くのにトロッコ電車に乗って約一時間二十分、帰りの電車にも乗り遅れないようにしつづけた特異性に戸惑いましたが、今では計画的にこなせるようになりました。最後に、広域な管内であります。貸付物件の確認や現場状況の把握のために一つでも多くの現場に足を運ぶよう努めています。

行事・会議等の予定

- ◎安全週間
7月1日～7日 局署
- ◎親子森林探検隊
7月7日 東信署管内
- ◎低コスト・高効率作業システム講演会
7月9日 長野市（局）
- ◎流域管理調整官会議
7月11・12日 飛騨署管内
- ◎低コスト・高効率作業システム現地検討会
7月11日 南信署管内
7月12日 木曾署・南木曾支署
7月17・18日 愛知所管内
7月31日 岐阜署管内
- ◎名古屋シティ・フォレスト事業
7月12日 東濃署管内





定光寺自然休養林
(じょうこうじ響の森)

「愛知所」定光寺自然休養林は昭和四十三年三月に設定され、愛知県瀬戸市北西部、岐阜県境に位置し、愛知高原国定公園（昭和四十五年十二月指定）内の庄内川沿い、標高五〇メートルから三二七メートルの丘陵地にあります。林相はスギ・ヒノキ・マツなど針葉樹の人工林と、シイ・カシなど広葉樹の自然林（天然林）により形成され、自然林（天然林）は、ツブラジイ、アラカシ、アカガシなどの巨木の下に、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、サカキ、シキミなどの低木が茂り、地表にはベニシダ、ヤブソテツ等のシダ類がみられるなど、学術的にも貴重な暖帯性の広葉樹林とされています。

このような緑豊かな自然環境を背景に、都市近郊の自然休養林として、四季を通じて「日帰り」を主体とした利用者が賑わっています。

面積は七一五畝で、瀬戸国国有林全体が

自然休養林となっており、休養林設定当初から、野営場、アーチェリー場、遊歩道、園地を順次整備し、その後昭和四十七年には、愛知県により「東海自然歩道」が六・七キロメートル整備され、自然休養林全体で約二十万人の年間利用者があります。

〈樹木見本林〉

約二畝の中に、外国樹種を含め七十五種の樹木があり、四季を通して観察ができ多くの利用者が活用しています。

〈遊歩道〉

休養林内には、二〇キロメートルを超える遊歩道が整備されており自由に散策ができるとともに、東海自然歩道も設置されています。

〈キャンプ場〉

自然林の中に、テントサイト・ケビン



キャンプ場



尾張徳川家の菩提所「定光寺」

を配置する総収容人員約三五〇人規模のキャンプ施設で、外部委託により運営されています。

〈アーチェリー場〉

昭和四十六年に公式コースとして整備した施設で、東海地方唯一のフィールドアーチェリーコース。地域の愛好者や大学等のサークルを中心に利用されています。

〈定光寺〉

定光寺自然休養林の隣接地にあり、建武三年（一三三六年）に創建された臨済宗妙心寺派の古刹。山号は心夢山（おうむざん）。本尊は延命地藏願王菩薩（地藏菩薩）。尾張徳川家の菩提所で、初代徳川義直侯はじめ歴代が納骨されています。本堂は創建当時の姿をとどめており、春は桜・秋は紅葉の名所としてもよく知られています。

◆所在地

愛知県瀬戸市川平町（瀬戸国国有林）

◆アクセス

【公共交通機関】

JR中央線「定光寺駅」下車。休養林口まで徒歩約五分。

愛知環状鉄道「中水野駅」下車。休養林口まで徒歩約一〇分

【自家用車】

高速道路では東名「春日井IC」、中央道「多治見IC」、東海環状「せと品野IC」から県道名古屋多治見線（旧愛岐道路）に入り「城嶺橋東」交差点を名古屋方面からは右折、多治見方面からは左折。

一般道では、県道名古屋多治見線（旧愛岐道路）を通り、「城嶺橋東」交差点を名古屋方面からは右折、多治見方面からは左折。



遊歩道からの眺望（展望デッキ）